

「令和6年度 第1回 和泉市医療と介護の連携推進審議会」 振り返り資料

資料 1

【開催日時】 令和6年9月4日(木)午後1時30分～午後3時

【主な内容】 議事1.令和5年度活動報告と令和6年度の活動計画について

【質問・意見等】

	提案(意見)	当日の対応	対応状況
1	【寄り添い型の総合相談について】 シングルケアラー・ワーキングケアラー・ダブルケアラー・多重ケアラー・ヤングケアラーなどの問題に対して、寄り添うことができる相談の窓口があってほしい。医療と介護の連携の中で、障がい福祉との連携など、縦だけでなく横にも繋がりを持っていないと感じる。	【事務局】 重層的支援事業につきましては、今は少し立ち止まって色々なところを再検証しているところ。縦割り行政というのがまだ続いており、その辺りにも課題がある。ただ、しっかりとやっていかないといけないと考えている。	
2	【人生会議メモ】 ○救急隊が緊急時に本人の携帯で連絡しようと思ったがパスワードを解除できず、誰に連絡していいかわからないことがあった。メールアドレスやSNSアカウント、携帯電話のパスワードなどの項目を入れ込んでどうか。 ○「第1章 私のこと」で「今のわたし」という欄があれば、今をこれからをどう生きていくのかに寄り添っているように思う。 ○分かりやすくシンプルにする方がよいと思う。 ○記入した人生会議メモを普段見えないところに入れていけると分らないので、保管場所の助言も含め提供ができればいいと思う。 ○人生会議メモが固いものではなく、普通に書くことができる、将来もっと楽しいイメージで受け取れて安心して記入できるようなものになったらいい。	委員による議論	OP12 デジタルデータについて、記載欄を設けた。 OP4 「3.今のわたし」として性格や好みなどの記載欄を設け、「4.これからのわたし」として会いたい人や大切にしたいことなど、本人希望を記載できるようにした。 ○わかりやすくシンプルさに配慮し作成した。今後、活用されていく中で、必要に応じ改定していく。 ○ただ配布するだけでなく、人生会議メモの必要性を理解いただき、日常から大切な人と自身の思いを話し合い共有していただくことが重要であると考えている。人生会議メモはその手段の1つとして、実際に活用いただくことでその意味を成すと考えますので、保管の仕方(情報共有の仕方)も合わせて伝えて行く。 ○人生会議メモのイメージについて、より気軽に、前向きに人生の最終段階についてきっかけとなるよう、専門職や市民の意見も伺いながら改善を、発信して行く。
3	【全世代、子世代への発信、主体性について】 ○市民の責務や役割が示されているが、市民理解の浸透はどうか。SNSなど若い世代が興味を持てる提案が大事と思う。市民役割の理解、マインドを定着化させるために、講話等で少しずつだし、我が事として考えようということを普及してほしい。 ○知った講座も高齢者に限らず枠を超えて、その前の世代の人たちにアプローチをかけていく必要があると思う。 ○条例ができ、それぞれの役割をきちんと入れてきた経緯があるが、今の時代に沿っているのか一度見直すほうがいいという意見もあり、もう一度見てみようと思う。 ○ACPを考える機会として、フォーラムや書面など形から入るのも必要なと思う。 ○気づきのない人たちに興味を持ってもらえるかというのが大きなテーマだ。 ○全世代的ACPということで、高齢介護室だけでは限界がある。ACPを自分事として考えていけるよう、まずは理解してもらえる人を巻き込んでいかないといけない。中学校の生徒会あたりにフォーラムを宣伝するとか学校でもポスターが貼ってあるといいと思う。 ○福祉関係の学生は授業の一貫でACPを意識する機会を持つと一生懸命考えるが、他学部の学生に対してできるかというとなかなか難しい。	○委員による議論 ○【事務局】 全世代型というところが事務局でも大きなテーマになっている。まず、PTAなどの学校教育の現場からお声がけをしていきたいと話している。学校教育現場やPTAからすこしずつ啓発し、中学校の生徒に広げるなどロードマップを描いていけたらと考えている。	○平成25年4月に「和泉市市民を中心とした医療と介護の連携推進条例」が施行され、「病気や寝たきりの状態になっても、望む場所で自分らしく療養生活が送れるまちづくり」を目指し、取り組みを重ねてきた。本市の人口は減少傾向にある中、団塊ジュニア世代が高齢期を迎える令和22年には高齢化率35.8%(26.4% 令和7年6月末現在)と予測されている。 条例に示されているように、市民・医療関係者・介護関係者・市の責務の理解促進は、地域包括ケアシステムのまちづくりを進めるうえで重要であると考ええる。 社会情勢の変化も踏まえ、目指すべき姿や課題など、引き続き、関係機関とともに検討し取り組みを行っていく。 また、高齢者に限らず幅広い世代に自分ごととして捉えていただけるような取組も合わせて検討し取り組みを行っていく。 ○福祉関係の学生に授業の一環としてACPを意識する機会を持つことや、若い世代への働きかけは、将来の専門職育成においても、また将来的に社会全体でACPの理解を深める上でも重要であり、学習機会や啓発活動の可能性について、関係部署や関係機関の連携を検討する。
4	【市民フォーラムについて】 ○パネルディスカッションの内容などもう少し説明して欲しい ○(自分の望む場所での自分らしい療養生活が送れるよう、より知識や情報を持っている)専門職から前向きなアドバイスがもらえる内容が嬉しい。 ○実体験の方が伝わりやすいことも考慮した内容を考えてほしい。 ○一般市民の目線で事前に声を聞いたらどうか。 ○人生会議の方法ではなく、どんな内容を話し合いうべきか、どんな選択肢を迫られるのかという意思決定、前もってみんなで考える、話し合っておくことを伝えるのが大事ではないか。	○委員による議論 ○【事務局】 今後専門部会で検討していきたい。	検討を重ね、市民フォーラムを開催した。 テーマ はじめませんか？人生会議 「わたしらしく迎えたい 人生の最終ステージ」 日時 令和7年2月22日(土)13:30～15:30 場所 和泉シティプラザ レセプションフォール 定員 70名(参加者 62名) 内容 1. 基調講演「急性期病院から見えるACPの現状」 2. パネルディスカッション 「在宅療養の現場から日常で備えておくことよ」 3. 参加者と専門職の座談会 和泉市版ACP手帳を実際に書いてみよう
5	【副市長あいさつ】 ○目標設定について、結果をはかる評価指標について、今後も3年経過でいいのかどうかというのは今議論している。 ○重層的支援以外の連携について、今年度計画を練って来年度から実施していくというスケジュール感である。多元的にやっていく部分と重層的支援というくくりで一元的にやっていく部分との仕分けを議論している。 ○ACPについて、市民の関心は意外と高い。最若年層の関心が高い。やはり教育は大切なと感じている。 ○人生会議をするということが前提のこの人生会議メモになっているが、あまり関心がない方へも訴求力のある人生会議メモを作っていないといけない。一方で、まずは使っていき不具合などを含め修正していくのもよい。 ○社会環境への介入、ポピュレーションアプローチについて、全世代が自分ごとに考えてもらうというアプローチも必要だと思っており、来年度へ向けてやっていく。 ○気が付かないうちにこう巻き込まれる、自然と学ぶ仕組み＝「戦略的な広報」が必要と思っている。		